

富士川は流れていなかった 沖田遺跡発見

今泉耕地の沖田地先でさる12月14日に弥生後期(1700年から1800年前)の土器片や舟のカイなどが発見されましたが、1月14日に新しく住居跡と思われるカヤぶき屋根の一部や矢板、土

器片などが発掘されました。この発掘により、弥生後期すでに集落があり、水田農業を営んでいたことが明らかとなり、考古学上に貴重な資料を与えてくれました。

発堀された場所は、通称「大島」と呼ばれるところで、岳南鉄道原田駅の南約100mの今泉耕地の中央部です。かつて、明治大学の故藤守一教授が、「吉原の古墳」という書物の中で「吉原地区には登呂のよつな大遺跡が必ずあるはずだ」と予言していましたが、まさか今泉耕地の中央部から発見されるとは、だれも予想していませんでした。弥生時代の住居跡は伝法、今泉など市内数カ所で発見されています。また、湿地帯から見つかっては、いづれも丘の上ばかりで湿地帯から見つかることで、住居跡は沖田遺跡が初

出土品は土器、木器、杭、矢板などで、岳南二号排水路のヒューム管理設工事中に、深さ四四cmの中から発堀されました。土器は、土堀りのとき破損してしまいましたが、益利土器、かめ型土器など大小約20種のつぼや皿類の破片約300点です。土器は煮物などに使われたとみられ、内部は黒くなっています。

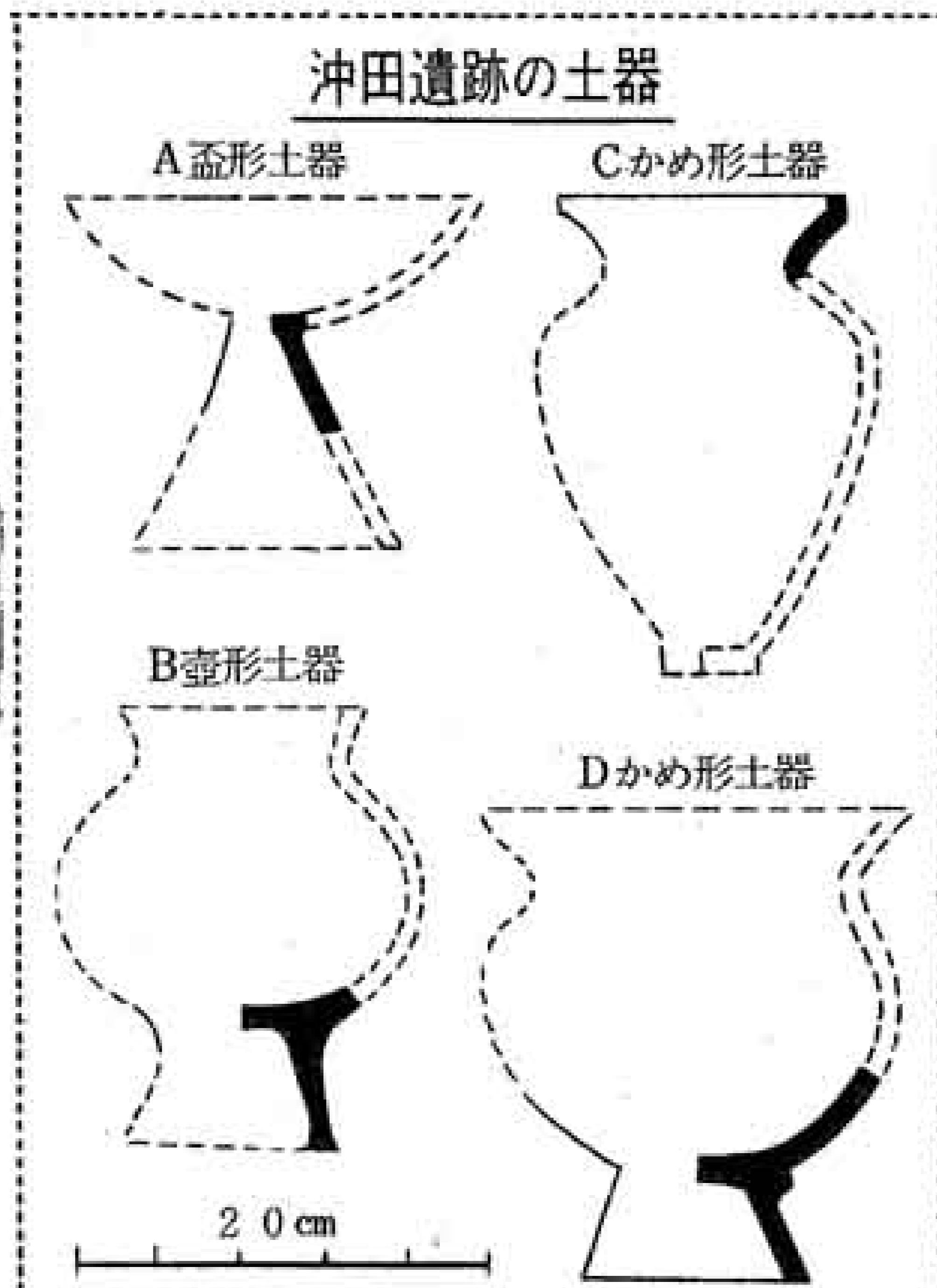
櫂・矢板など が出土……

出土品は土器、木器、杭、矢板などで、岳南二号排水路のヒューム管理設工事中に、深さ四四cmの中から発堀されました。土器は、土堀りのとき破損してしまいましたが、益利土器、かめ型土器など大小約20種のつぼや皿類の破片約300点です。土器は煮物などに使われたとみられ、内部は黒くなっています。

弥生後期
(一七〇〇年前)



祖先の大集落か



登呂遺跡に匹敵

鈴木寅男中
央図書館長は
「弥生時代の
土器や木器が
発見された
のは非常にめ
ずらしいこと
です。わずか
幅五尺を堀つ
てこれだけの
出土品があ
つたのですから
今後の調査に
よっては登呂
遺跡に匹敵す
る遺跡がある
のではないか
と思われます」



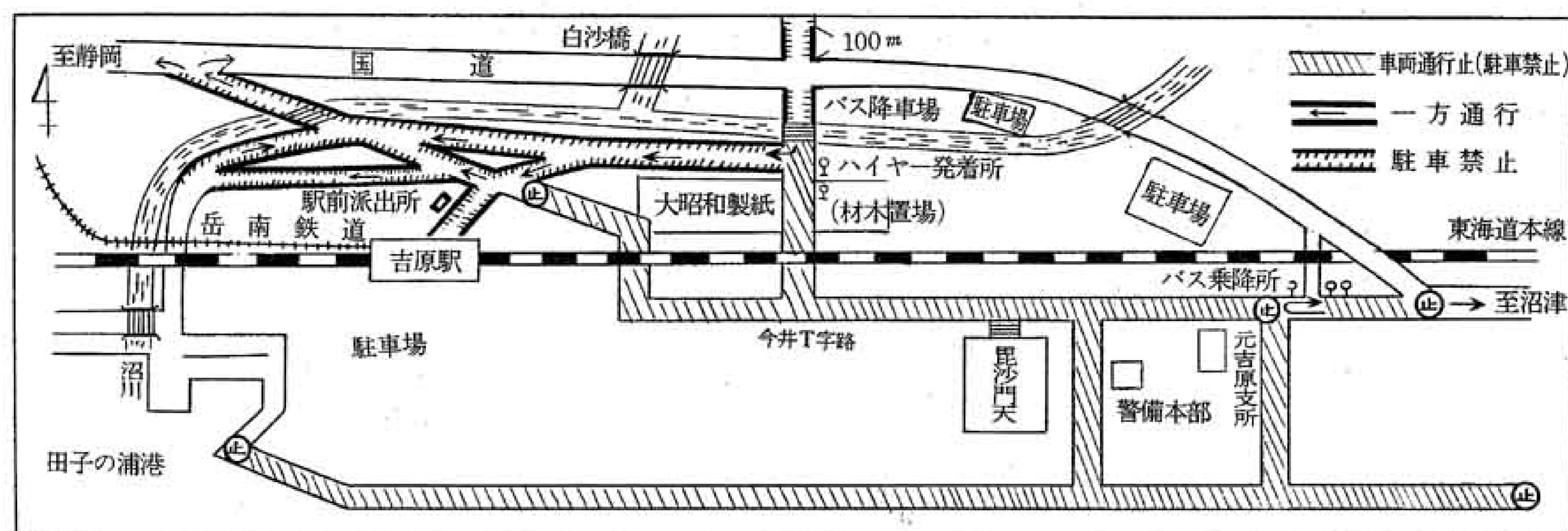
写真説明
沖田遺跡から出土
された櫂、土器、炭化したか
屋根の一部リ中央図書館保管

ぐに適しています。矢板は、約10枚発堀されています。これは水田の土どめに使用されたものとみられます。大きなものは長さ二三m、幅三三cm、厚さ一二cmもありモミやスギでつくられています。そのほか土どめ杭も何本か発堀されています。

住居跡としては、黒く炭化したカヤぶき屋根の一部と、天井に使ったサンの一部とみられる木片がみつかりました。カヤぶき屋根は、当時住居か倉庫にしか使用しませんでした。このよつな出土品から、この附近に多くの人々が住み、地縁共同体(土地を仲介とした共同体)でつながつていなかつたと考えられるとともに、通

じるところになります。さらに、今泉耕地を中心とした区域がある時期に陥没したのではないと見られています。その理由としては、出土品がすべて地下から発堀され、それから推察して当時火災があつたと思われます。

吉原警察署は、二月十五、十六、十七日の三日間行なわれる、毎沙門天祭にそなえ、元吉原地区の一部に次のようないわゆる交通規制を行ないます。
午前九時まで。十六日が午前八時三十分から午後十時までとなっています。



毎沙門天祭 交通規制